

令和4年度 第1回 図書館協議会 会議録

1 日 時

令和4年6月30日（木）午後2時30分～午後4時25分

2 場 所

ラトブ4階 いわき総合図書館 学習室

3 出席者

(1) 委 員

委員長 草野 チエ子

副委員長 小野 順一

委 員 坂本 義仁、齋藤 日和、柳田 明美、草野 祐香利、有賀 史人、
長岡 智子

欠席者 三重野 徹、栃内 賢一

(2) 事務局

ア いわき総合図書館

館長、山野邊副館長、小泉副館長、渡邊主任主査、総務管理係長、
情報資料係長

イ 地区図書館

勿来図書館長、常磐図書館長、内郷図書館副館長、

欠席者 小名浜図書館長、四倉図書館長

4 委員長、副委員長の選出

5 議事

(1) 報告事項

ア 新型コロナウイルス感染症対策への対応について

イ 令和3年度図書館運営実績等について

(ア) 実績統計

(イ) 事業実施報告

ウ 令和4年度図書館運営方針等について

(ア) 運営目標

(イ) 事業計画

(ウ) 移動図書館運行計画

エ その他

6 その他

— 会議内容 （司会進行：山野邊副館長） —

1 開会

(委員 10 名中 8 名が出席しており、いわき市立図書館協議会規則第 4 条第 1 項の規定による半数以上の出席があり、会議が成立した。)

2 委嘱状交付

教育部長より坂本義仁新委員、齋藤日和新委員に委嘱状を交付した。

3 教育部長あいさつ 教育部長

4 委員、職員紹介

5 いわき総合図書館長あいさつ 総合図書館長

6 図書館協議会の概要

事務局より、会議資料 2～3 頁に基づき説明した。(総務管理係長)

7 委員長、副委員長の選出

いわき市立図書館協議会規則第 2 条第 2 項の規定による委員の互選により、委員長に草野チエ子委員、副委員長に小野順一委員が選出された。

8 議事

いわき市立図書館協議会規則第 2 条第 3 項の規定により、草野委員長が議長となり、会議を進行した。

(1) 報告事項

ア 新型コロナウイルス感染症対策への対応について

事務局より、会議資料 5～7 頁に基づき説明した。(総務管理係長)

イ 令和 3 年度図書館運営実績等について

(ア) 実績統計

事務局より、会議資料 8～14 頁に基づき説明した。(総務管理係長)

(イ) 事業実施報告

事務局より、会議資料 15～24 頁に基づき説明した。(情報資料係長)

(意見、質疑応答)

委員 長：事業実施報告について、子ども司書育成講座を受けられた方は、リピーターか新しい方か、割合はどうか。

事務局：今回は中級の育成講座で5・6年生の受講であり、前回初級の講座を受講した4年生が1～2名おり、ほとんどの方は初めての受講だったが、今後も継続して実施していく必要性を感じたところである。

ウ 令和4年度図書館運営方針等について

(ア) 運営目標

事務局より、会議資料25～28頁に基づき説明した。(小泉副館長)

(イ) 事業計画

事務局より、会議資料29～34頁に基づき説明した。(情報資料係長)

(ウ) 移動図書館運行計画

事務局より、会議資料35～36頁に基づき説明した。(渡邊主任主査)

エ その他

○ 電子図書館の利用状況について

事務局より、参考資料に基づき説明した。(情報資料係長)

○ 令和4年3月16日発生福島県沖を震源とする地震の対応について

事務局より、参考資料に基づき説明した。(総務管理係長)

(意見、質疑応答)

委員 長：地震の写真を拝見すると酷い状況ですが、破損した書籍等もたくさんあるか。

事務局：背が割れてしまった書籍もあり、適宜補修したり、必要なものについては、業者へ補修をお願いしている。数百冊の被害ではなく数十冊ほどである。

坂本委員：私は、中央台北小に勤務しており、先日、出前講座「使ってみよう！いわき市電子図書館」では高学年の2クラスが総合図書館にお世話になり、電子図書館を登録しスタートした。今1人1台のタブレット型端末を小中学校で活用しており、タブレットを使って導入的なものに取り組んだり、

また、電子図書館を使って電子書籍の続きを読んだり、いろいろな時間を上手に使うことができるのが良いと思う。例えば、2週間おきに定期的に図書館に行けるお子さんは限られているが、この電子図書館は2週間たったから自動的に返却できるため、そこもデジタルの良さだと思った。また、学校図書館の向上や子どもたちへの読み聞かせをはじめとした読書環境の向上には学校司書の力は非常に大きい。総合図書館と学校司書の担当である総合教育センターが連携して、司書研修を継続的に進めていただいているのもいわきの学校の強みだと思う。

草野(祐)委員：プレパパ、プレママ用の赤ちゃんのパンフレットができて嬉しく思う。子どもの読書を推進していくというところで、まだ実際には子どもはいないが、妊娠中から取り組むということをして進めていただけてすごく嬉しい。プレパパ、プレママに参加した方に配布するとのことだが、参加する方は限りがあるので、どこかに置かれていたり、ダウンロードできるのか教えていただきたい。

事務局：プレパパ、プレママクラスでは限られた方が対象であり、いま数を減らしながら実施しているため、手にとる機会がさらに少ない。これから広報の方法も考えながら、取り組んでいきたい。パンフレットにはおすすめの本を出版社の方に1点1点確認し載せており、子ども読書週間には実際に本を展示し紹介した。そういった機会をこれからも作っていきたい。ダウンロードについても、これからホームページに掲載していきたいと思う。

また、赤ちゃんへのおすすめ絵本のパンフレットは、10か月健診の会場で全員に配布し、図書館内にも設置しており、今後もパンフレットを作成し広報に努めたい。

※委員長より、せっかくの機会であることから、各委員から意見等をお伺いしたい旨の発言があり、意見等をいただいた。

副委員長：昨年度、図書館のビジネス支援として、事業承継などのテーマをという話をさせていただき、早速加えていただきありがとうございます。また、先ほどの10か月健診におけるおすすめの本も本当に素晴らしいことだと思います、今後も推進していただきたい。また、先ほど教育部長から、レファレンスを非常に力を入れられているというお話があったが、職員の皆様のご

努力に敬意を表したい。それから、今年度の事業計画の中でも美術館や文化施設との連携という話が出たが、商工会議所もそうであるが、まちの活性化という意味でも図書館はそのハブになるところだと考えている。例えば、アリオスや美術館を含めて相互に連携していくと面白い企画もできると思うので、ぜひ今後も推進していただきたい。

坂本委員：チャレンジホームへの読書支援も大変有り難い。また、いろいろな事情があって学校に行くことができない不登校のお子さんも電子図書館を利用して、本の世界に親しむ、豊かな読書環境もこの電子図書館はある意味チャンスだと感じた。チャレンジホームは、学校に復帰する前に市内の公民館や文化センターにある子どもが学んだり、活動する場。ただ、そこに来れるおさんは復帰傾向に近いが、チャレンジホームにも参加が難しいおさんも実際にいる。例えば、ゲーム依存症のお子さんへ電子図書館へのいざない、学校教職員が子どもたちに知らせる手立てを持たなければならないが、子どもたちに簡便に届けられるものがあれば有り難いと思ったのが1点である。

2点目は、いわき号、しおかぜの移動図書館も子どもたちは楽しみにしていて、その時刻に合わせて地域の方が参加するという場面もあった。学童クラブなどへの貸し出しパックなどはあるのか。それぞれのニーズがあり、通常だとタイトな時間だが、夏休みや冬休みは長い時間過ごすので、まだ読んでいない本のパックなどがあると、ニーズが高まると感じた。

齋藤委員：資料P28の図書館利用の促進のこの項目に関して、パソコンやインターネットを利用できない、使いこなせない方への支援として、予約方法やインターネット情報を周知しても使えないのではと思い、これは使い方も含めての周知になるのか。

事務局：使い方の案内をしていくという意味で記載している。

齋藤委員：中学生までに向けては資料の支援が整っているという印象を受けている。大人と子どもの中間であり、活動も忙しくなり、学習内容も多岐に渡り難しいと思うが、ちょっと大人の知識も必要という高校生に向けての資料があるといいなと以前から高校司書の間でお話していた。常備したパックでなくても、一般のテーマに関するパスファインダー、図書館利用の案内のようながあると、司書が図書館に行ったときに高校司書として使い易

いと感じた。

また、外国語絵本について、高校に通っている人の中にも、ルーツが海外にある人も増えているという印象を受けている。私は平工業高等学校の司書ですが、外国にルーツがある人もおり、日本語はできるが学校に通えていない人、また、私立高校には、日本語も覚束ないが高校に行きたいから来ている人もいると聞いた。高校になると、絵本で外国語を読むということではなくなってきて、一般的に普通の本を読みたいというニーズがあると思っている。難しいですが、英語でない言語の方も多く、ブラジル、タイや東南アジア系の方もおり、そういう方に向けて資料が整っていたり、情報や案内があると、そこからさらに繋がって、家族にも情報が行くのではと考え、そういった外国語資料、大人が簡単な日本語で図書館の情報を得ることができるような何かあるといいと思う。

事務局：外国語の資料は総合図書館の5階に国際資料コーナーがあり、その中にベトナム語を母国語としてお使いの方がいわきに結構いることを伺い、書籍を少しだが揃えている。また、5階の入口に国際資料テーマ展示のコーナーがあり周知している。さらに、4階の児童コーナーにも外国語の絵本もあるので利用していただきたい。

柳田委員：私の娘は、高校図書館の委員として、7、8年前夏休みに国会図書館に研修に行き大変感動したと言っていた。高校の3年間姉妹揃って図書委員もしており、小さい頃から本に親しんでいて、今回、小さい子にすすめる絵本の中で、家には、『どんどこももんちゃん』が揃っていて、私もボランティアで読み聞かせに行っており、『だるまさんが』という絵本は、大型絵本で10年以上前から持っていたが、19年の水害で流されてしまい、また買うことができ、大型絵本は値段が高いが家族の協力で大型絵本を揃えている。

また、アクアマリンとの連携では、生き物を直に観てきて、図書館でその生き物を探すというのが子どもたちは好きだった。美術館との連携では、『ぐりとぐら』の展示をしたときは、友達と何度も美術館、図書館に足を運んだ。そのように親も子も連携というのは、いろいろな意味で、交流を図れると思う。さらに、いわき・ら・ら・ミュウでは、いわき七浜の鳴き砂展を開催していて、土日は砂絵教室をしており、子どもたちに砂絵をお手伝いしており、先日紫色の富士山を作った。子どもたちの絵は素直で自

由に描いていて素晴らしい。お母さんの絵にもとても感動した。もし機会があればお越しいただきたい。これからも、図書館、美術館、アクアマリンなどとの連携を続けていっていただきたい。

有賀委員：常磐の歴史と文化や海水浴場の展示を観させていただき思ったが、複製の展示になるのはしょうがないと思うのですが、現物など展示していただけるといいのかなと思い、そういったほかの施設との連携は取りづらいものなのか。

事務局：企画展については、その分野の専門家に監修していただくことはあるが、資料をお借りして展示というのは、資料の状態や保存などの関係で難しいところがある。当館で持っている資料があるので、そういったものを状態を確認しながら出せればと考えている。

有賀委員：郷土史家や文学者の資料を図書館として一括で寄贈を受ける場合があると思うが、寄贈されたものの中にはプライベートのものもあるが、そういったものはすぐに展示になるのか、いずれは展示ということになるのか。今は展示はできないが、30年、50年経つと展示できるものと考えて収集をしているものか。

事務局：現段階では、先の活用方法ははっきりとはしていないが、地域資料はその時収集しないと散逸してしまうものであり、見つけた時には購入し、まずは保存ということを重点に考えている。

有賀委員：研究者として、すぐ使いたい資料があっても、図書館に寄贈し、すぐに見ることが出来なくなるときは、図書館に収めるべきか民間に収めるべきか迷うところが出てきてしまう。

長岡委員：声の奉仕グループでいわきの広報や市議会だよりなどを主に音訳して、目の見えない方や見えにくい方にCDやテープに録音してお送りするというボランティアグループで活動している。今回録音図書の作成などもお手伝いをしているグループではあるが、2年間は、作った録音図書はコロナということで少なく、これからもご依頼があれば活動させていただきたいと思う。対面朗読についても機会が許せば関わっていきたいと思う。

委員長：コロナが流行って、図書館職員が開館、閉館、時間短縮などで、ご苦労されていることは理解している。その中で、インターネット予約、貸出サービス、レファレンス、ブックポストへの本の返却、公民館への図書返却など、市民の方々にお心配りいただき有り難いと思っている。企画展示も多彩であり、数々の展示をしていただき、興味のある方に見ていただいて感謝している。図書館ネットワーク体制の充実ということで、いわきの図書館では足りないと思う高度で多様な書籍を市民に提供していただけて、いわき市の図書館は立派である。さらに、市民のためにできること、スタッフ、協議会委員が知恵を出し合っていければいいと考えている。長時間にわたり、貴重なご意見をいただきありがとうございます。

9 その他

議事終了後、湯本駅前における多世代が集う交流拠点の整備について、事務局より図書館にかかる概要を説明した。 (山野邊副館長)

続いて、都市計画課より補足説明があった。 (都市計画課渡邊専門技術員)

10 閉会